

## Stroke2017 参加報告

札幌医科大学附属病院 平野 透

2017年3月16日(木)～3月19日(日)迄に大阪国際会議場においてStroke2017が開催されました。この学会が日本脳卒中学会学術集会、日本総卒中の外科学会学術集会、スパズム・シンポジウムの3学会の合同開催であり、我々が参加する春のJRC(Japan Radiology Congress というらしいです)と同じ学術集会の形式になっている学会です。今回のStroke2017のテーマは「脳卒中に学ぶ」であり、脳卒中治療分野の中には革新的ともいえる発展を遂げた治療や診断もありますが、脳卒中全体としては一部分であり患者数の増大、後遺症に苦しむ患者・家族は後を絶っていない状況のようであり、まだまだ医師並びに医療関係者が学ばなければならない事が多々あるという意味も含めてStroke2017全体のテーマになったのだと感じております。本学会への参加が私は初めてであり学会総演題数2400演題以上と会場の規模の大きさのため、何を聴講すれば自分に有益な情報が得られるか悩みました。JRCでは自分の興味がある脳神経領域をプログラム見ながら時間調整し聴講していましたが、全てが脳卒中に関係する内容なので一般演題もシンポジウムも教育講演もどれも興味ある内容であり、残念ながらある大半の発表は聞けませんでした。今回私が聴講したのは頸動脈狭窄病変、脳動脈瘤、脳動脈解離や脳動静脈奇形などに対する治療戦略や新たな治療法についてのシンポジウムを中心に聴いていました。病変に対する施設による治療の進め方の違いや術式、並びに今後当院にも導入が予想される新たな治療法などの情報を得られました。手術支援や治療支援に関わる診療放射線技師は画像解析や撮影技術以外に手術・治療に関わる多くの知識がないと臨床医の期待に答えられる画像を提出することは難しいと私は思っており、Stroke2017においては抗血小板療法、手術、リハビリや看護ケアなど様々な臨床現場で必要とされる情報が多くあり、皆さんにも参加して欲しい学会の一つと思っています。この学会に私の調べる範囲では4人の診療放射線技師の

発表がありました。看護師さん達においては看護師セッションや看護師さん向けの教育講演やシンポジウムもあり非常に多くの参加者で盛況な様子でした。プログラムには脳卒中に関連した画像診断のセッションもありましたが、普段 CT や MRI 装置などの機器の操作や機器性能を詳細に知っていない医師が発表するため、間違ったコメントを言われる場面もあり、この画像診断分に関する領域では私達の活躍する場が多いかと思っています。ちょうど同じ時期に金沢市において日本循環器病学会があり多くの診療放射線技師の参加があったようです（詳細は山口さんから報告があると思います）。臨床的知識は幾らあっても無駄ではないと思います。皆さんも興味のある臨床系の学会に参加されては如何でしょうか？